

# 夢だより 風だより

四月号からスタートした「夢だより風だより」は、町長が徒然想っていること、考えていることを書き記し、皆さんにお伝えするコーナーです。  
このコーナーに関するご意見、ご感想がございましたら町企画課へお寄せください。

三月十六日、高根沢町国際交流協会主催日本語講座閉講式に出席した。開講から五年、週二回、年八十四回の講座で、平成十年度は、八カ国五十二名の皆さんが受講されたという。八名の講師はすべて、ボランティアとして協力いただいているとのことであった。

受講生の挨拶が式の終わりにあった。南米からの女性は、日常会話はなんとかできて漢字が読めないため、病院の窓口にある問診表に記入することができなかつた。外見は日本人そのものであるがゆえに、漢字が読めないと告げられたとき、周囲の人達の視線に悔しい思いをしたと話された。

また、フィリピン出身で、家庭を持ち、三人のお子さんを育てている女性は、子どもたちの宿題をみてあげたり、学校からの通知を読めるようになりたいたと勉強をはじめ、少しずつ分かるようになったことが嬉しい、と感激の面持ちで話された。そして、受講生の皆さんすべてが、この講座を開設した国際交流協会と町当局への感謝を心いっぱい伝えて下さったが、それを聞いている私の心の中には、受講生に対する感謝の気持ち一杯に満ちてくるのを押さえることができなかつた。

ベストセラーになった「五体不満足」という本の中で「目の前にいる相手が困っていれば、なんの迷いもなく手を貸す。常に他人よりも優れていることを求められる現代の競争社会のなかで、僕等はどういった当たり前の感覚を失いつつある。助け合いができる社会が崩壊したと言われて久しい。そんな『血の通った』社会を再び構築しうる救世主となるのが、もしかすると障害者なのかもしれない」と著者の乙武洋匡君は書いている。

言葉の壁を前に懸命に生きる皆さんを高根沢町はどのように受け入れることができるのか、

本当に血の通った地域社会はどうあるべきなのか…。

皆さんが勉強する以上に、町自体が、そして私自身が皆さんに多くのことを教えられている。言葉や肌の色、出身や身体的精神的機能の違いによつて人間の価値を判断しない町づくりの方向を皆さんは教えてくれている。久しぶりに人間のすばらしさを感じた夜であった。

結びに、講座をボランティアで支えて下さっている先生方の名前を記して感謝にかえたい。

花澤庄治（東町南区）

齋藤兆司・久子（桑窪）

野澤克子（石末） 杉本 渡（花岡）

見目道子（中阿久津） 大森敬子（氏家町）

志渡博子（宝石台）

— 敬称略 —

— 深謝的感謝 —